

正副議長記者会見 会見録（概要）

日時：平成22年5月17日15時15分～

場所：議事堂6階603会議室

（議長）やっと今日、副議長選挙が終わりまして、新しい副議長が、森本副議長が誕生いたしました。14日の所信表明演説では、三重県議会を代表するような本当に素晴らしいお二人の方が立候補されました。それぞれ県議会に対する熱い思いを述べていただき、今日、本会議で投票の結果、森本新副議長が誕生したということでございます。私は前々から申し上げておりましたとおり、爽やかな選挙をしていただきたい、すがすがしい選挙をしていただきたいということでございます。いろいろ議論の中で、副議長の選出を選挙するのはいかがなものかというようなご意見も確かにこれありました。国の方では第一会派から議長、第二会派から副議長というのが常道であると、県議会も是非そういうふうにしてもらいたいというようなお話も確かにございました。しかし、基本的な認識において、国は議院内閣制でございますから、当然多数党が総理を選出し、内閣をつくっている。当然国会の中に与党と野党というものが生まれるわけございまして、円滑な議会運営の上で、与党から議長、野党から副議長というのが常識になってきておりますが、こういう地方議会におきましては、議院内閣制ではありませんから、元々議会の中に与野党というものは存在をしないということです。やはりその時点で一番適切な方、有意義な人材の方を議会でしっかりとご議論をいただいて選んでいただくというのが一番いいやり方だろうとこう思っております。今回そういうふうな、ある意味では非常に素晴らしい方法で副議長を選んでいただき、また素晴らしい方をご選出いただいたということで、非常に喜んでおります。これから1年間、森本新副議長とコンビを組みまして三重県議会のさらなる発展のため、また議会運営の円滑な運営のために努力をしていく、そのような思いでございますから、引き続きご指導のほどよろしくお願いを申し上げたいと思います。以上です。

（副議長）今年1年、三谷議長の下で副議長をさせていただくことになりました。どうぞひとつよろしくお願いをしたいと思います。特に広聴広報関係については、申し上げたとおりでございます。ともかく県民との意思の疎通を欠かないような議会の広聴広報に努めてまいりたいというふうに思っていますので、どうぞよろしくお願いをいたします。以上です。

(質問)議長と副議長ともにお伺いしますが、今日の副議長選挙の結果、25対23という形になりましたけれども、この票数について議長と副議長はいかに感じになりましたか。

(議長)25対23で2票差なんですけど、非常に接近しておりました。これはお二人の候補者ともが非常に素晴らしい方だということの表れではないかと思うております。どちらが当選をされてもおかしくない、遜色のないりっぱな候補者であると、その結果が25対23という票に表れてきたのではないかと考えています。この票差において、今後しこりが残るとかうんぬんというようなことは一切ないと思うておまして、やはり選挙が終われば、選挙の結果を全議員が尊重して、しっかりと団結して進んでいくということが求められているんだろうと思いますし、おそらくそういうふうになるだろうと思っています。

(副議長)あんまり副議長がしゃべるのはいかがかと思ひますんで、簡単にさせていただきますけれども、選挙によって副議長を決めていくというのは議長のおっしゃったとおり、そのとおりだろうと私は思ひますし、従来のような話し合いでやるということについては、いわゆる少数会派の意見というのが反映されないというふうな状況から、やはり少数会派もいわゆる議員全員で参加できたということでは、票差というのはそう大きな問題じゃなくて、やっぱり全49人、全員で参加して副議長を選んだという、いわゆる数の論理ではなくて、理の論理の中で選ばれたということについては、非常によかったのではないのかなというふうに思ひております。以上です。

(質問)女性議員をもっと増やすために広聴広報活動に力を入れていくとおっしゃいましたけど、具体的にはどういうことを考えられてみえますか。

(副議長)東京都だとかいろんな所で非常に女性議員がたくさん議席を占められておるような所を参考にしながら、それといわゆる議員になるのが大きな組織だとか、看板だとか、地盤だとかそういうものが漠然とやっぱり県民の中にあると思ひますので、そういうことじゃなくて誰でも参加できる、そういうような状況というものをきちんと説明しながら、供託金がいくらあったらできるんだとかそういうような形の具体的なものと、他県の女性議員が多いような所をどんどんと県民に情報を公開していきながら判断してもらう方法をとっていきたいと思ひますけれども、まだ具体的にはもう少し勉強させていただきたい。以上です。

(質問) 三谷議長に伺いますけど、票差はたいしたことないから問題じゃないと言いますが、そうは言いながら、議会は依然まだ数の論理でもあると思うので、そこからいくと、この2票差というのは実際結果が出たときにどのように感じになります。

(議長) こういうふうな2票差が出て、おっとう思ったのはあります。いろいろ選挙前に白票が出るのではないかとか、自派の会派の方のお名前を書くのではないとかいろいろな話が出ておりましたので、48票、無効票ゼロできちんと数字が出てきたということには少し驚きを感じました。しかし、結果として、きちんとそれぞれの思いに基づいて、信念に基づいてそれぞれの一番素晴らしいと思う方のお名前を書いていただいた、そしてこのような結果を生んでいただいたということには各議員の皆様方のご判断に敬意を表したいというふうに思います。

(質問) 今日欠席届が大野議員から出ておりますけれども、祓脱いんですね、これは痛かったという思いは。

(議長) そういう思いはないですね。僕は当初から言っていましたように、どこの会派からどなたが出られようとそれは構わないと、それが議会が選んだ方であれば私はその方としっかりとコンビを組んで議会運営をやっていくということは申し上げてきておりますので、大野さんがけがで出席できなかったということがこれが痛かったとかそういう思いはありません。ただ、大野先生のお話を聞きますと、どうしてもやはり本会議には出たいという強いご意向があったというふうに聞いておりますので、そういう意味では大野先生自身が非常に残念といたしますか、悔いを残しておられるのではないかなというふうに思います。

(質問) 議長は大野さんにお会いになったんですね。

(議長) 会いました。その時は元気だったんですよ。事故のすぐ直後に行きましたんでね。冗談も言い、話もしてたんですが、その後何か内臓の方に少しダメージがあったとか、少し元気になられて、がんばってリハビリされてまた調子が悪くなったとか、いろいろご家族の方からお話を聞いておまして、それだけ早く本会議に出たいというお気持ちが強かったのかなという感じがします。

(質問) しこりがないという話なら、仮に票数が出て、実際2票とは言いながら、25対23という結果が出たわけですから、これによって中村進一県議の政治生命というかイメージがちょっと損なわれたとかそういうこともないわけですね。

(議長) それはないと思いますね。今まで副議長選挙だとか議長選挙に出て志が達せられなかった方もおられますけれども、そういうことで政治生命に傷が付くとか、経歴に傷が付くとかそういうふうなことは誰も思っていませんし、おそらくそういうことはあり得ないと思ういます。これはあくまでも選挙ですから、その選挙の結果というのはみんなが尊重しなければいけませんし、そういう意味では僕は爽やかな選挙とお願いしているのは、まさにそういうことであると思ういます。

(質問) 女房役が1年で替わるわけですがけれども、今度の女房役とはですね、理念的なものは変わらないと思いますけれども、議会改革を進めるという意味において、ただ女房役が替われれば、ここの部分で期待できる部分とか、新しい部分もあると思うんで、その辺はどういうふうに。

(議長) 当然本会議場での一般質問がかなり静かになっていく現実の問題は出てくるところだと思いますけれども、私以上にベテランのにおいを漂わせていますから、ある意味では非常に議会運営がやりやすくなるのではないかなと期待しています。

(質問) 新副議長にお伺いしますが、今日一時的に議長席に座られましたが、最初の感想みたいなものは何かありますか。

(副議長) 感想というよりも責任の重大さというものを痛感させていただいたところでございます。

(質問) 今後ずっと午後は座られますよね。本会議で。

(副議長) 議長が事故あるときはそういったこととなります。

(質問) 副議長にあらためてちょっとお伺いしたいんですけれども、県議会が一枚岩になるために、副議長としての職責というのはどういうふうにお考えですか。

(副議長) 今言ったように、数の論理ではなくて、理の論理というか、お互いに政策を出し合いながら、切磋琢磨しながらとことん詰めていくということが一番いいのではないかと思いますし、現実の問題として、意見書にしてもあるいは請願にしても、結果的には一枚岩になっておるんで、いわゆる萩野前議長の言われるような理の論理というものをやっぱり中心に議会運営を行っていけばいいのではないのかなというふうに思います。

(以 上)

15:30 終了